

分類	3—(2)	資料名 ⑫ わたし あなた みんな
資料について		<p>このパネルは、幼児の喜怒哀楽などの表情を描いています。</p> <p>幼児期の発達の特徴の一つである、他者の存在を意識することから発展させ、自分が好き、友だちも好きという、自他を尊重する感情をはぐくむために作成したものです。</p>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分と違う他者（友だち）の存在に気づき、自他を尊重する感情を高める。 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と違う人がいることや、自分と違う思いがあることを知り、相手を思いやる心をもつ。 ○ 自分のよいところを見つけたり、それを表現したりする。 ○ 自分の周りの人々に、興味や関心をもつ。 	
指導の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心の状態を十分把握しておく。 ・ 幼児の身体的特徴に対して、他の幼児がからかったりすることのないように留意する。 	
展 開 例	活動内容	環境の構成・教師の援助
	<p>① パネルに描かれている表情は、どんなときにするのかを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師：いろいろな表情があるね。どんな時の表情かな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される幼児の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 驚いているとき ・ 笑っているとき ・ 悲しいとき ・ 怒っているとき ・ 楽しいとき ・ 泣いているとき </div> <p>② 自分の生活を振り返り、自分の気持ちや友だちの気持ちについて話し合う。</p>	<p>□ それぞれの表情に対する幼児の思いを受け止めていく。</p> <p>□ 一日の中でもいろいろな表情が変化することに気づくようにする。</p> <p>* すべての表情について、取り上げるのではなく、教師が幼児の実態にあった表情を取り上げて話し合いをさせる。</p>

	活 動 内 容	環 境 の 構 成 ・ 教 師 の 援 助
展 開	<p>教師：みんなは、どんなときに〈例：怒った〉表情をするのかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】 〈例：怒っているとき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを友だちに分かってもらえないとき。 ・せっかく積み木で家を作ったのに、壊されたときに怒ったことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 感情には「よい、悪い」という区別はなく、すべて自然な感情であり、感情を表出することにも「よい、悪い」はない。幼児から出される思いを丁寧に受け止めていく。 □ 話し合いを通して、同じ表情でもそれぞれの思いが異なることに気づかせる。 □ 同じ出来事でも、幼児により受け止め方は異なることに気づき、違いを認め合えるように話し合いをすすめる。
	<p>教師：〈例：怒った〉表情をしている友だちを見て、みんなはどんな気持ちになるのかな。また、自分が〈例：怒っている〉とき、友だちにどうして欲しいと思っているかな。</p> <p>【予想される幼児の発言】 〈例：怒っているとき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ怒っているのか聞いてみよう。 ・いやなことがあったのかな。 ・近づかないでおこう。 ・誰か理由を聞いてくれないかな。 ・嫌なことを、何とかしてほしい。 ・かまわないでおいてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 友だちのかかわり方についていろいろな考えを出し合うことで、お互いを知るきっかけとする。 □ 周りにいる友だちに関心をもち、積極的にかかわっていくことの大切さに気づかせる。
例		